

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 25年 8月 15日			
所属学部・研究科	教育学部 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ユヴァスキュラ大学 (国名: フィンランド)			
所属学部・学科等名	教育学部			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 24年 8月 15日～ 平成 25年 5月 31日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類: 在留許可 (留学用)			
	ビザ申請先: フィンランド大使館			
	取得方法, 提出書類: 申請用紙 OLE_OPI、受け入れ機関からの入学許可あるいは招待の手紙、大学の在籍証明、銀行残高証明書、海外旅行保険契約証明書、申請料金			
	手続きに要した日数: 2~4週間			
その他必要な事前手続き	フィンランド大使館にて、指紋による生体認証付在留許可カードのための指紋採取			
出国年月日	平成 24年 8月 15日			
経路	東京成田空港発 — ヘルシンキヴァンター空港着			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	9月の始めの週に、一週間程度のオリエンテーションあり。 大学の仕組み、学生の権利、履修の仕組み、寮、施設の案内。			
帰国年月日	平成 25年 7月 12日			
経路	ヘルシンキヴァンター空港発 — 東京成田空港着			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額	900,000	円	
	内訳	渡航費	190,000	円
		保険料	160,000	円
		教科書代(学費)	0	円
		宿舍費	300,000	円
		食費	250,000	円
		その他 ( 費)		円
( 費)		円		
( 費)		円		
<b>3. 授業について</b>				
2013年 秋学期	9月 3日	～	12月 20日	

2014年 春学期	1月 1日 ~ 5月 31日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	比較的自由に選択可能。短期のものと長期のものがあり、サマースクールなども利用できる。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	留学生用に開講される大学の授業は英語で行われるため、英語をもちいて自己表現をし、意思疎通を行う力をつけておくとよい。
<b>4. 生活等について</b>	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )
住居の広さ	約 18.75㎡ 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 ( 1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ( 机, 椅子, ベッドなどの家具 )
住居費	1ヶ月当たり 230ユーロ (1ユーロ=110円)(現地通貨) 約 25,300 円
住居を決定した方法	<input type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ( )
留学先での住居全般に関するアドバイス	ユーロと円の関係で、2013~2014年度の場合、1ユーロ95~130円の幅で変動した。洗濯機と乾燥機が無料で使える部屋がある。サウナを毎日無料で利用できる。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ( )
掛け金は	年間 162,000 円 補償額 死亡 10,000,000 円, 入院1日 円 その他 ( )
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	良い。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	特になし。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
特になし。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
特になし。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 27年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 26年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input checked="" type="checkbox"/> 単位不足のため <input checked="" type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に )	
現在の状況および今後の予定・進路等	就職活動、及び教員免許取得	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫		
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
ユヴァスキュラ大学 HP		
フィンランド大使館 HP		
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
<p>大切だと思うもの、譲れないと思うものはしっかりと握りしめ、縁や出会い、巡り合わせなどに対しては心を開き、手を広げて迎え入れる姿勢があれば、きっとたくさんのことを経験し、自分のものにすることができると思います。大好きなフィンランドによろしくね。</p>		

## 学習の概要に関するレポート

ユヴァスキュラ大学への学習の成果は以下の通りです。

## 1) 教育学部で開講される授業を通して、フィンランドで行われている教育への理解を深めた。

留学先のユヴァスキュラ大学では、教育学部に所属し、教育に関するコースを中心に学習を進めました。例えば、私のとった” Special education” や” Education in Finland” の授業では、フィンランドの教育制度の仕組みや教育を支えている中心的な考え方を内容として扱いました。クラスの中では、講義やセミナーのテーマに沿って日本とフィンランドの教育を比較したり、他の国から来た留学生と、批判、評価、意見交換をしました。フィンランドで価値をおかれていることについて学ぶことは、同時に、自分の国の教育を支える価値観や考え方について想像をめぐらせると言うことも意味していましたし、世界の様々な場所に、その数だけ、その土地に特異な環境や歴史に深く根ざした教育の形があるのだということを感じました。

また、実際フィンランドではどのように授業が行われているのかを知りたかったので、” normaalkoulu” という大学附属の小学校や中学校に足を運び、英語のクラスを初め、フランス語のクラスやフィンランド語の授業を参観しました。クラスの雰囲気を感じたり、先生と子どもとの距離を感じたりするのはとても有効だったと思います。

## 2) 他学部で開講された授業やフィンランド人との交流を通じて、フィンランドの文化についての理解を深めた。また、他文化を学ぶことで、日本の文化を客観的に見つめることができるようになった。

社会科学学部やコミュニケーション学部の授業を通して、フィンランドの歴史、社会問題、サーミの文化についての知見を獲得しました。自分の専門外の授業が比較的自由にとれることは、ユヴァスキュラ大学の魅力の一つだったと思います。また、” each one teach one” という言語プログラムを通してフィンランド語を学びかわりに日本語の学習を支援しましたが、その過程で、日本語特有の表現、日本人に特有の人との関わりかたや接しかた、またそれを支える価値観や歴史について考えるきっかけになりました。その結果として、日本文化を他の文化と同じように、個性的な一つの文化として再認識できるようになったように思います。

人間理解と言語についての話ですが、正直に言って、ユヴァスキュラでは英語だけで生活することが可能です。しかし、フィンランド語という言語への挑戦は、フィンランドに暮らす人々の生活や考え方を理解する助けになると思いましたし、フィンランド語を通じて意思疎通ができたときの喜びは一人ではなく、話せないときに感じる焦燥感や悔しさもまた、自らを初心に返してくれるという意味で大切なものだったように思います。

## 3) 留学生活を通して、英語で日常会話をこなす能力、物事を説明する能力、自分の意見を伝える能力、相手を理解しようとする姿勢といった、人間理解のための力が身に付いた。また、英語という外国語を、日本にいたとき時とは異なる視点で見つめることができた。

ユヴァスキュラ大学では留学生向けの講義は全て英語で行われたので、講義や留学生との意見の交換を通して、英語の識字能力、会話能力を高めることができました。また、英語や他の外国語で自分の意見や感情を表現することは決して容易なことではなかったため、苦労や葛藤を通じて、人と人が関わること、言語を通じて意思疎通をはかることはどういうことかについて、考える機会を得ることができました。英語を使った会話や交渉に慣れてからは、英語という現在世界で広く使われている言語に対して批判的な視点をもつことができるようにもなりました。

## 生活の概要に関するレポート

### 1) ユヴァスキュラ大学

ユヴァスキュラ大学は、北欧フィンランドの中央に位置する大学です。ユヴァスキュラは、首都ヘルシンキから電車で3時間半のところに位置します。ヨーロッパをはじめ、アフリカ、アジア、南アメリカなど世界各地から留学生を受け入れている国際的な学術機関です。学士からドクターまで、様々な研究フィールドで留学生の受け入れを幅広く行っているため、異なるバックグラウンドを持つ人に出会うことができます。

ユヴァスキュラ大学の留学生支援室のサポート体制はとてよく、大学のウェブサイトの利用の仕方からコースの選び方まで、留學生活について不安なことならなんでも、親身になって手助けしてくれます。また、チューター制度が秀逸で、同じ大学生のチューターが、フィンランドに来たばかりで右も左も分からない留学生に、スーパーでの買い物の仕方から、生活用品が手に入るセカンドショップの場所、街のことから大学のことまで、しっかりと教えてくれます。

### 2) 自然とユヴァスキュラの街

高緯度に位置しているため、日本とは随分と異なった季節の移ろいや自然の姿を、身をもって体験することができます。フィンランドが森と湖の国と形容されるように、ユヴァスキュラにもたくさんの緑と青があり、自然の恵みに助けられながら生きる人々の姿を目にすること多いでしょう。日本の大都市や中小都市に比べれば、圧倒的に人口が少なく、街自体のサイズも小規模ですが、必要なものが全てつまんだ機能的で過ごしやすい都市で、調和のとれた自然と街の姿があります。

9月から冬至の日に向けて、気温が徐々に下がり、日照時間も短くなります。私の留學していた年の11月から1月にかけては、100日の間に日照時間が18時間しかありませんでした。これは、マスコミがニュースとして取り上げるほど極端な例でしたが、一般に、午前9時に日が昇り、午後3時には日が暮れるという状態が2~3ヶ月ほど続きます。冬の間は、よく雪が降り、気温は、 $-10\sim 15^{\circ}\text{C}$ 、地面は10~20cmの氷に覆われます。知らず知らずのうちに気持ちがふさぎ込みがちになるので、友人と会って話をすることや、外に出る機会を増やすことが大切だと思います。ただ、雪が積もってくると雪の白さのおかげで明るくなるので、思ったよりは気分が楽かもしれません。寒さも暗さも厳しいですが、スキーやアイススケートといったウィンタースポーツに挑戦することもできますし、凍った湖の上を歩いたり、一面の銀世界を見ることができたりと、日常の中で自然の有り難みと尊さを感じる機会にたくさん恵まれると思います。

### 3) 言葉

フィンランド人は、2カ国語以上を話す人が少なくありません。母国語であるフィンランド語はもちろん英語にも堪能で、それに加え、同じく公用語であるスウェーデン語やその他の外国語を話す人もいます。留学生向けの授業は英語で開講されるので、英語で勉強をすることができます。また、留学生は英語で勉強している人が大半なので、英語を通して多くの人と知り合えることと思います。

最後にフィンランド語についてひとつだけ。当初は、英語が話せるようになればそれでゴール達成だと思っていました。しかし、英語を話すときには見せてくれない彼らの笑顔や優しさに、フィンランド語を四苦八苦して話したときに初めて出会ってからは、その土地の言葉で人と話すのは本当に大切なことだと気付きました。フィンランドで生活することは、日本語、英語、フィンランド語、あるいはそれ以上の数の言語をまたいで、言葉やそれと密接に関係する文化について考えるととてもいい機会になることと思います。



(左) 大学の構内の様子。通うのがとても楽しい大学でした。(右) 日本のそれとはひと味も二味もちがう、高校生の卒業式も見ることができました。



(左) ユバスキュラの町並みをタワーから見下ろす。(右) 夏になると湖で泳いだり、湖畔でピクニックをしたりします。



(左) ラップランドではトナカイにも会うことができます。(右) Kiitos paljon. フィンランドにたくさんのことを教えてもらいました。

